

中国工場が完成 非エア化成品等を生産

マーク テック 海外開拓へ攻勢、タイにも

金属探傷剤の最大手、マークテック(東京都大田区大森西)は5月8日、かねて建設中だった中国工場完成に伴い、5月28日に現地で竣工式を開くことを明らかにした。

新工場は中国上海市の3

大工業団地の一つ、上海市工業綜合開發区(奉賢区)に建設されたもので、敷地面積は約1万平方メートル。建屋は2階建てで、延べ床面積は2千平方メートル。投資金額は数億円(非公表)。従業員数は約70名で、総経理には山

下健次郎・マークテック上海化学有限公司総経理が就任。日本の主力工場である



マークテックの中国工場
(上海・奉賢区)

成田工場と同様、機械および化成品の生産を目的としており、生産能力も成田並みになる模様。これにより、販売拠点である上海マークテック化学(完全独資)を支える生産拠点が実現、成

長する中国市場へより迅速な製販対応が可能となる。エアゾール製品に関しては、過去の合併事業(旧蘇州マークテック、2009年まで)時代にエアゾール充填設備を有していたため新工場でも充填設備導入も検討されたが、今回は現地企業への外注で対応していくとしている。

また、同社では既にタイにも新工場を設立、3月より操業開始している。バンコクから東、プレンヤイオのゲートウェイ工業団地に位置し、敷地面積は1万平方メートル。延床面積3千平方メートル、従業員数は約25名。生産能力は成田工場の3分の1で、エアゾール製品は外注対応している。

同社取締役の栗原一博営業部長は「今後の探傷剤市場で生き残れるかどうかは国際戦略を握れるかどうかにかかっていると言っても過言ではない。急速な海外進出が必要と敢えて2010年にMBO(マネジメント・バイアウト)も行い下準備を重ねてきたが、近年は売上高・利益ともV字回復してきている。2014年の再上場を目指し、更にスピードを上げていくので、取引先各社にも協力して欲しい」と語っている。